

Ⅲ 研究大会報告

第 25 回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「新しい時代の生きる力をはぐくむ みやざきの特別支援教育
～幼児児童生徒が安心できる環境づくりを目指して～」
- (2) 期 日 令和6年8月6日(火)
- (3) 開催方法 宮崎県立延岡しろやま支援学校(ホスト)からのYoutube Liveによるハイブリット型研修

2 内 容

- (1) 全体講演会「次世代のユニバーサルデザイン『NextUD』の観点からテクノロジー活用を考える」
【講師】兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授 小川修史 氏
- (2) 障がい種別教育研究部会研修会

部会名(担当校)	内 容
情緒障がい (宮崎南小) 担当: 田崎 みちよ	事例報告会 「コミュニケーションスキル向上のための実態把握と 段階的な自立活動の実践」 ～授業の組み立てと他者との連携を通して～ 宮崎市立宮崎小学校 小野 友香 教諭
聴覚障がい (延岡しろやま支援 聴覚障がい教育部門) 担当: 本部 葵麗	講演 「新しい時代につなげる聴覚障がい教育」 五瀬 浩 氏 協議 「聴覚支援学校として各学部でできる取組(短期的視点、長期的視点)」
視覚障がい (明星視覚支援) 担当: 今村 昭仁	講演 「視覚障害教育から触覚支援教育へ ～失明しても明星をみることが出来る理由～」 国立民族学博物館 人類基礎理論研究部教授 廣瀬 浩二郎 氏
知的障がい (みなみのかげ支援学校) 担当: 畦原 真理子	講演 「知的障がいのある子どもの「よさ」を生かした自立活動の在り方」 岡山県立岡山南支援学校 教諭 徳田 朋子 氏
肢体不自由 (延岡しろやま支援 肢体不自由教育部門) 担当: 荒川 京子	講演 「肢体不自由教育におけるICT活用の在り方」 国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部 主任研究員 織田 晃嘉 氏
病弱 (赤江まつばら支援) 担当: 藤本 啓介	講演 「不登校傾向等のある児童・生徒への理解と支援」 宮崎東病院 児童精神科 橋口 浩志 氏
難聴・言語 (明道小) 担当: 福山 勝文	講演 「吃音のある児童への指導と保護者へのサポート」 金沢大学 教授 小林 宏明 氏

3 報 告

午前中の講演については、参加者数が905名、後日オンデマンド動画配信の視聴回数が371回と、大変多くの方に視聴していただくことができました。

御講演いただいた兵庫教育大学教授、小川修史氏は、ユニバーサルデザインの観点を基に、ニコニコ動画形式で参加者の意見を募集したり、グループディスカッションを設けたりしながら、参加者が思考を巡らせる機会を多く設定されていた。参加者からは、「分かりやすかった」「体験的な活動が多く、楽しみながら参加できた」「対話的な講演で、主体的に参加することができた」等の声をたくさん聞くことができた。また、「ちょっと思いを馳せる」「いつもちょっとテクノロジー」等の合言葉や建設的対話、ポジティブストレス、セルフアドボカシー、エンジョイビリティ等のキーワードを基に、教師と幼児児童生徒が楽しめる授業づくりについて深くお話をいただいた。参加者の

中では、授業の中でICTを活用することへの抵抗感や不安感が弱まったり、幼児児童生徒の成長に繋がる程よい負荷（ポジティブストレス）を見極めていきたいという意欲に繋がったりする有意義な機会となっていた。

別日または当日午後の障がい種別教育研究部会研修会については、各障がい種別教育研究部会が企画、運営を担当した。参加者も多く、盛況であったようだ。

課題としては以下のことが挙げられる。

○ 案内文書等の配布方法

大会開催に際して、一次案内、二次案内、接続テストの案内、開催要項の4部を配布した。各連絡は、小中学校はC4th、特別支援学校はミライムで行った。各エリア部会事務局を通して、県内の小中学校及び特別支援学校への配布を試みたが、いくつかのエリアで案内が行き届いていない状況が把握された。その後、問い合わせのあった学校へは、大会事務局から直接案内を配布した。

○ 申し込み方法の整理

担当者会（令和5年10月）の際に、午前の部及び別日または午後の部への参加申し込み方法を一本化する方向で同意を得た。しかし、第二次案内配布時に、大会事務局への申し込みとは別に、部会独自の追加申し込みを設けた教育研究部会があり、「申し込みが二重になって分かりにくかった」等の意見が多数寄せられた。独自の申し込みを設けた部会としては、参加者の個人連絡先（メールアドレス）を把握したかったとのことであった。

○ 動画配信に伴うトラブル

午前の部において、確認されたトラブルは以下の3つであった。

- ①開催要項にあるYoutubeLive用のQRコードから配信チャンネルに接続できなかった。
- ②動画配信中に、音声途切れることがあった。
- ③講師の声が聞き取りにくい時間帯があった。

①及び②については、接続テストを実施した際にも寄せられた意見である。学校用のタブレットでは、セキュリティの関係でYoutubeに接続できないことが報告された。その際は、別の端末（学校用PC、個人用PC、個人用スマートフォン）であれば、接続に成功したとのことであった。また、音声途切れるトラブルについては、受講者側の回線状況によるものであることが把握された。従って、①及び②に関する注意点及び改善点を大会事務局からのお知らせに明記し、開催要項と併せて事前に配布している。

③については、講師にマイクを通さずにお話いただくことで対応した。

○ アンケートの実施及び集約方法

QRコードにて実施した。回答数は、448件であった。前回大会の反省を受けて、個人のメールアドレスを記入せずに回答を送信できる形としたが、回答数は思うように伸びなかった。個人用のスマートフォンを使用することに抵抗のある参加者も多かったようである。

4 最後に

2か年計画で運営にあたるため、担当者（障がい種別教育研究部会、エリア部会）が変更となる場合もある。各部会における十分な引き継ぎの必要性を強く感じた。

お力添えいただいた方々に、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。